

HUGUAN SIOU

19 世紀、英国がサバを統治する以前、カダザンドスンの村々の生活において HUGUAN SIOU とは彼らの社会制度の一つであり、戦士の長のことであり、村や地域を守護する「勇敢なるリーダー」への敬称であった。HUGUAN SIOU と呼ばれた人々は勇猛果敢であり飛び抜けた運動能力を有し礼儀正しい理想的男性であった。

古い時代の有名な HUGUAN SIOU は、Bouvang（ライオンを意味する）である。ブルネイの専制君主がサバを統治していた頃、川はサルタンやその親族の所有物であり、川の周辺の村人から税金を徴収していた。しかし、徴収の頻度が増え圧制的になったので人々は納入を拒否し戦いが起った。Bouvang をリーダーにして戦いに挑み勝利した。

Bouvang は税徴収者たちの首を刎ね竹竿に突き刺し行進をした。ブルネイのサルタンは復讐のため出兵することはせず特使を送り村の長老と協議をして税の徴収方式を改めた。Bouvang に感謝した村人は HUGUAN SIOU の称号を贈った。

Bouvang の没後、サバが英国勅許会社政府に支配されるようになって、それ以前のカダザンドスンの諸々の社会制度は廃止された。HUGUAN SIOU の称号も約 70 年間忘れ去られ、1950 年代、独立の兆しが見え始めた頃、復活することになる。

Tun Fuad Stephens は、イギリスの支配からサバが平和裏に独立するに当たって大いに貢献した一人である。彼は独学の人であり優れたジャーナリストであった。政治、経済、歴史、地理に詳しく、自分の新聞 Sabah Times を発行した。彼は 1950 年代の英国植民地行政下で政治の舞台に登場することになった。祖父はスコットランド人であり、祖母はカダザンである。父親は日本占領時代にゲリラとして活動し処刑された。彼はサンダカンにあった英国の学校で教育を受けた。当時、カダザン社会は自分たちの主張を擁護するリーダーを必要としており、植民地立法府のメンバーであった彼に白羽の矢が当たった。サバ全土のカダザンドスンは、毎年行う収穫祭を祝日にするよう植民地政府に求めていたが無益に終わっていた。1958 年、Stephens は、カダザン社会の指導者に選任され、この課題に挑戦した。1960 年から収穫祭が祝日として制定されることになり、カダザン社会は伝説に則り彼に勇敢なる指導者の称号 HUGUAN SIOU を与えることにした。

1961 年 Malaya の首相 Tunku Abdul Rahman により、Malaya, Singapore, Sarawak, Sabah を合体してマレーシア連邦を作るという構想が打ち出された。Stephens は、連邦の実現を契機に独立でき英国が去ったとしても Malaya が連邦の主導権を握ることになり平等性が失われるという理由で、当初、この構想に反対したが、すぐに不安は解消され、新たな連邦を作ることに関する強い提唱者になった。彼は 4 か国からなるマレーシア同盟諮問委員会 (Malaysia Consultative Solidity Committee) の議長になり Sabah や Sarawak が新連邦に於いて優位性を保てるようにした。また、政府間委員会

(Inter-Governmental Committee) に於いてサバの代表になった。1963年8月31日マレーシアを介してサバの独立が公表されたとき彼は初代のサバ州主席大臣になった。彼の尽力によりマレーシア憲法ではサバ州の權益を保証する20項目が規定されている。主な内容は信仰の自由、州による移民の管理、サバの先住民に対しマラヤのマレー人と同等の権利を与えることなどである。彼は、不幸にして1976年飛行機事故で他界した。

長らく空席であった HUGUAN SIOU の地位に 1983 年 Joseph Pairin Kitingan が選任された。カダザンドスンの長老たちは、カダザンの伝統的文化を大切にするため、1965 年までにカダザン文化協会 (Kadazan Cultural Association) を設立していたが、協会の名称に Dusun という語は加えられていなかった。同じ言葉を話すにもかかわらずある集団は Dusun と呼ばれることを好み、別の集団は Kadazan を好んだ。1977 年、Pairin は、この協会のトップに就任後、協会の名称を KDCA (Kadazandusun Cultural Association) に変更した。KDCA のある場所は毎年行われる州全体の収穫祭の開催地であり、カダザンドスンの伝統と文化を保存し啓蒙する拠点でもある。彼は、1985 年から 1994 年まで首席大臣を務め、現在なお副主席大臣の要職にある。

1983 年、カダザンドスンにとって重大な事態が発生した。時の政府は、サバ州のいろいろな先住民族の呼称を統一して Pribumi という一つの名前にすることを決定した。実際、1980 年に行われた人口動態調査では、すべての先住民社会が Pribumi という一つの名前で表されている。カダザンドスンの指導者たちはこの決定を覆すべく HUGUAN SIOU の指導力を必要とし、Pairin に就任するよう説得した。現在も彼はその地位に付いている。

HUGUAN SIOU の称号を与えられた 3 人には共通点がある。Bouvang はブルネイのサルタンによる重税から人々を救い、Stepans は収穫祭を祝日にするため英国植民地政府と交渉し、Pairin はカダザンドスン固有の文化と伝統を守るために政府と交渉した。何れも HUGUAN SIOU の敬称を与えられるに相応しく自分たち (Kadazandusun) の社会を維持するために権威を恐れずに勇敢に立ち向かったところに共通点がある。



HUGUAN SIOU Joseph Pairin Kitingan

註：本稿は Herman J. Luping 著「THE KADAZANDUSUN」の 10 章の抄訳です。他に上東輝夫著「東マレーシア概説」を参考にしました。